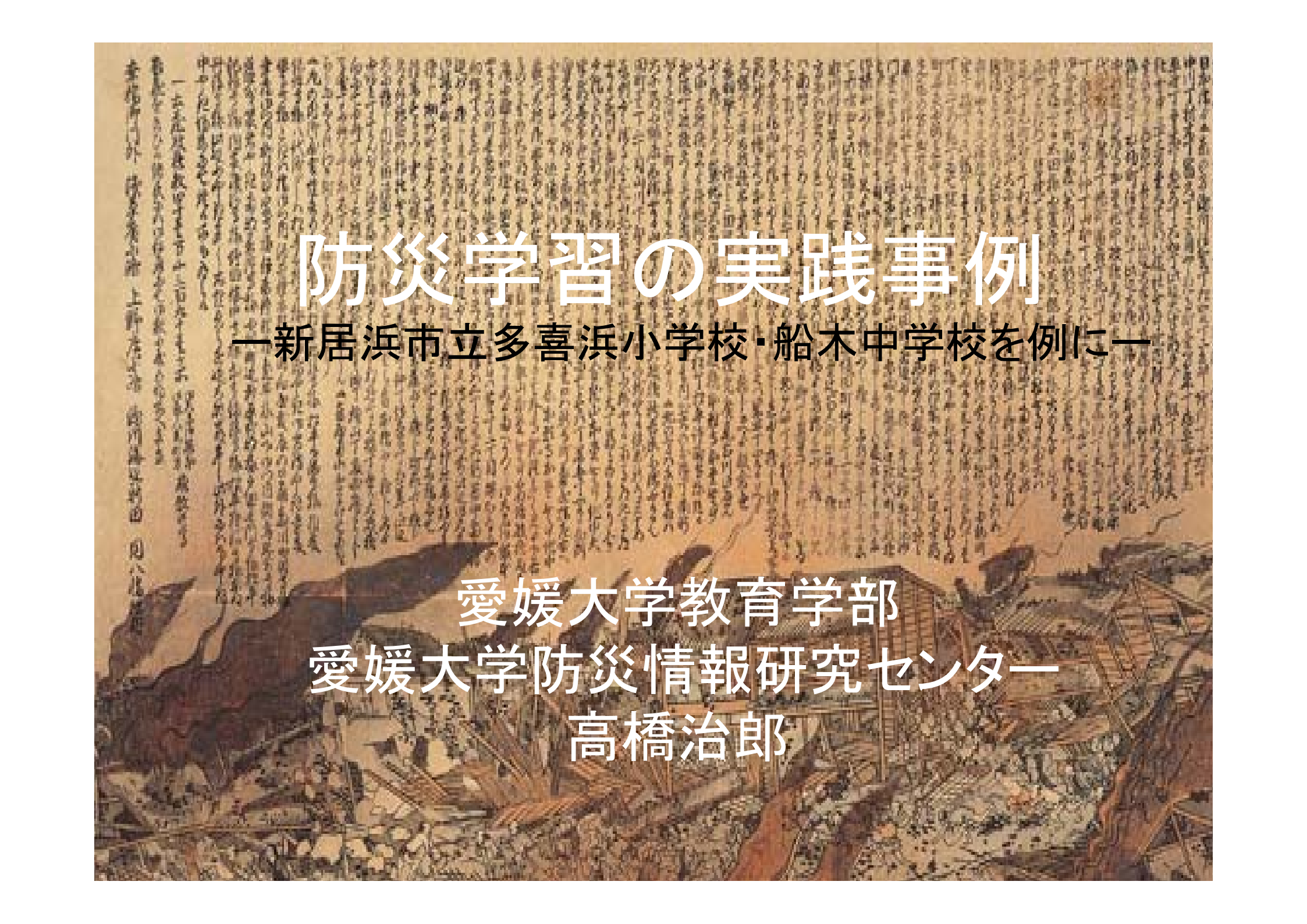




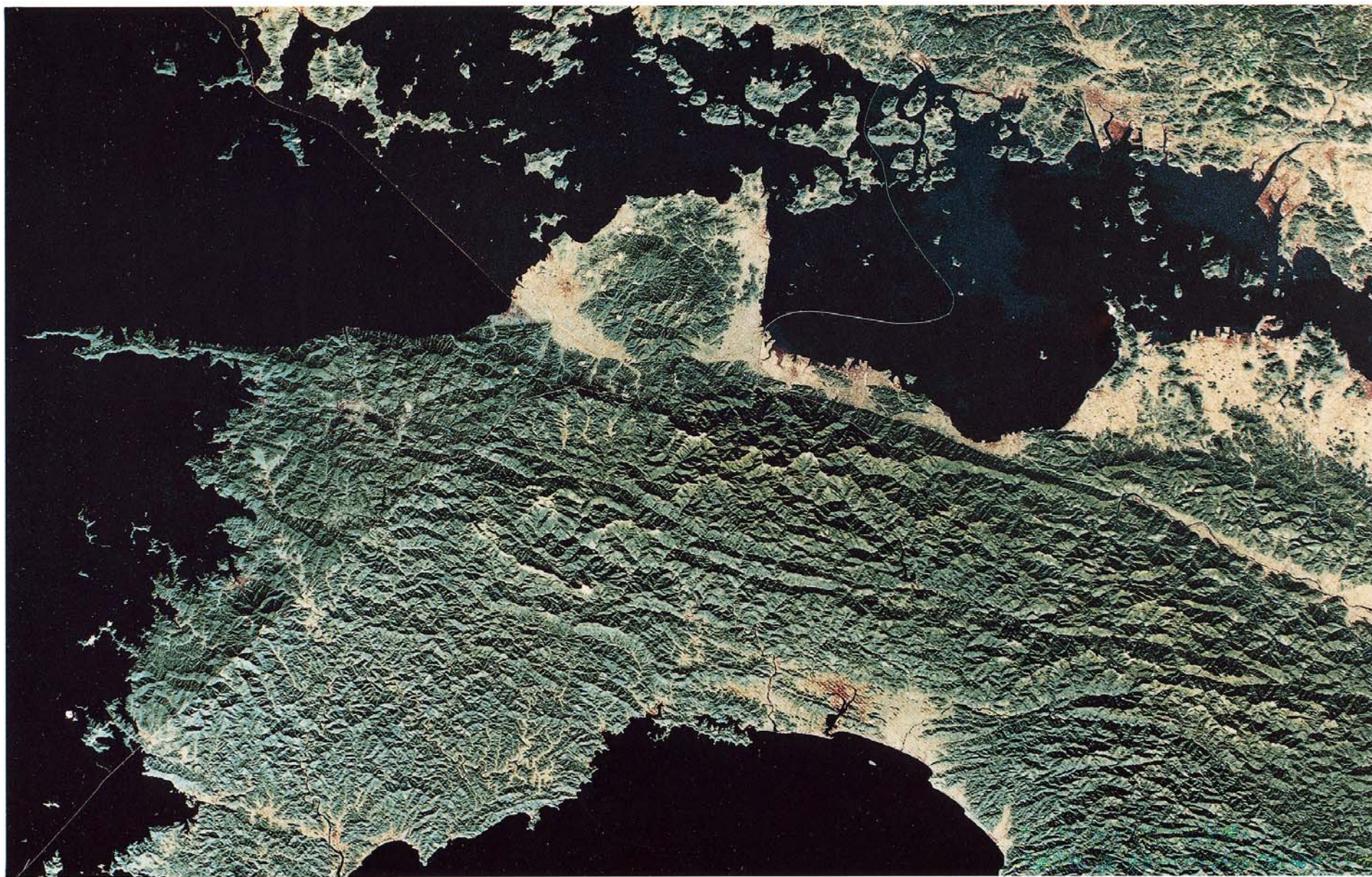
防災学習の実践事例

—新居浜市立多喜浜小学校・船木中学校を例に—

愛媛大学教育学部

愛媛大学防災情報研究センター

高橋治郎



写真提供 (財) リモート・センシング技術センター

新居浜市立多喜浜小学校

- 児童数 245人
- 教学級数 10クラス
- 員数 16人 (2008年4月現在)



「防災教育を活用する」
(生きる力＝人間力、の育成)
(理科教育へ)

- 地域の自然を知る(地形・地質・気象・動植物)
- 地域社会を知る(近所、市役所や消防署などの仕事、歴史など)
- 地域の危険を知る(通学路・山や川、池・災害)
- 身の守り方を知る
- 人の役に立つ方法を知る

防災教育＝理科教育

- 問題・課題を見付ける
- 問題意識を持って調査・観察する
- 科学的に解明する努力を払う
- 自然災害や自然についての理解を深める
- 科学的な判断(見方・考え方)をおこなう
- 死んだりケガをしない術を身に付ける

これらを理科(地学)教育に利用する

防災教育研修会の開催

主 催 愛媛大学防災情報研究センター 新居浜市教育委員会

開催年月日
開催場所

平成19年2月26日(月曜日)
新居浜市役所5階大会議室

参 加 者

小中学校教諭 29名 新居浜市教育委員会4名
愛媛大学 国土交通省松山河川国道事務所 新居浜市

講 演

愛媛大学教育学部 教授 高 橋 治 郎
愛媛大学大学院理工学研究科 教授 矢田部 龍 一



阿部教育長 あいさつ



会 場 風 景











ビデオ・てんじコーナー







地震が起きたら、どうなるかな
みんなで考えよう



通学路に危険が潜んでいないかな
みんなで考えよう

記

日時：平成19年6月21日(木) 10:30-12:10

対象：多喜浜小学校 生徒235名

指導：教諭14名 愛媛大学防災情報研究センター4名（矢田部龍一、高橋治郎、中島淳子、松本美紀）

場所：多喜浜小学校 体育館

内容：

防災クイズ：簡単な防災クイズで生徒の防災知識を把握する

ビデオ上映：「防災についてみんなで考えよう」（松山河川国道事務所作）

自然災害の実態と防災への各種備えを平易で面白いビデオで学習する

図上演習

18班に班分けし、家庭内（リビング・台所、寝室・勉強部屋）、学校内（普通教室、家庭科室、図書室、音楽室、理科室、体育館、運動場）、通学路に分けて危険な物や場所を事前調査し、その結果を持ち寄って班員全員で討議し、危険予知防災マップを作る

発表

- ・各生徒が宿題で行った防災チェックシートの集計結果の発表（6年生3名が発表）
- ・家庭、通学路、学校の危険箇所調査結果の発表（18班から4班の代表を選んで発表）

台所・リビング

寝室・勉強部屋



学校内に危険箇所はないかな？

十一月 大地震に付損亡仕る写し。但三多喜浜一同差出し候内多喜浜分

自分普請 一、多九番浜土手樋切垣 二間に一間崩れ、土手馬乗り十三間程豎に割れ

右同断 一、多八番浜地場手前 長十二間、幅二十間水吹出し、土地下り、土手馬乗り三十間割れ

右同断 一、同七番浜樋の上 四間に一間石垣崩れ、土手馬乗り二十五間並に塩蔵東へなびき

惣浜普請 一、相生橋台東石垣 高三間、幅一間崩れ、橋落ち申し候

自分普請 一、喜四番浜樋の上より 同二番浜蔵台迄、馬乗り百五十間程なびき

右同断 一、多二番浜樋の前 一間石垣崩れ申し候。

十一月十一日大庄屋所へ差し出す。

(多喜浜塩田史)

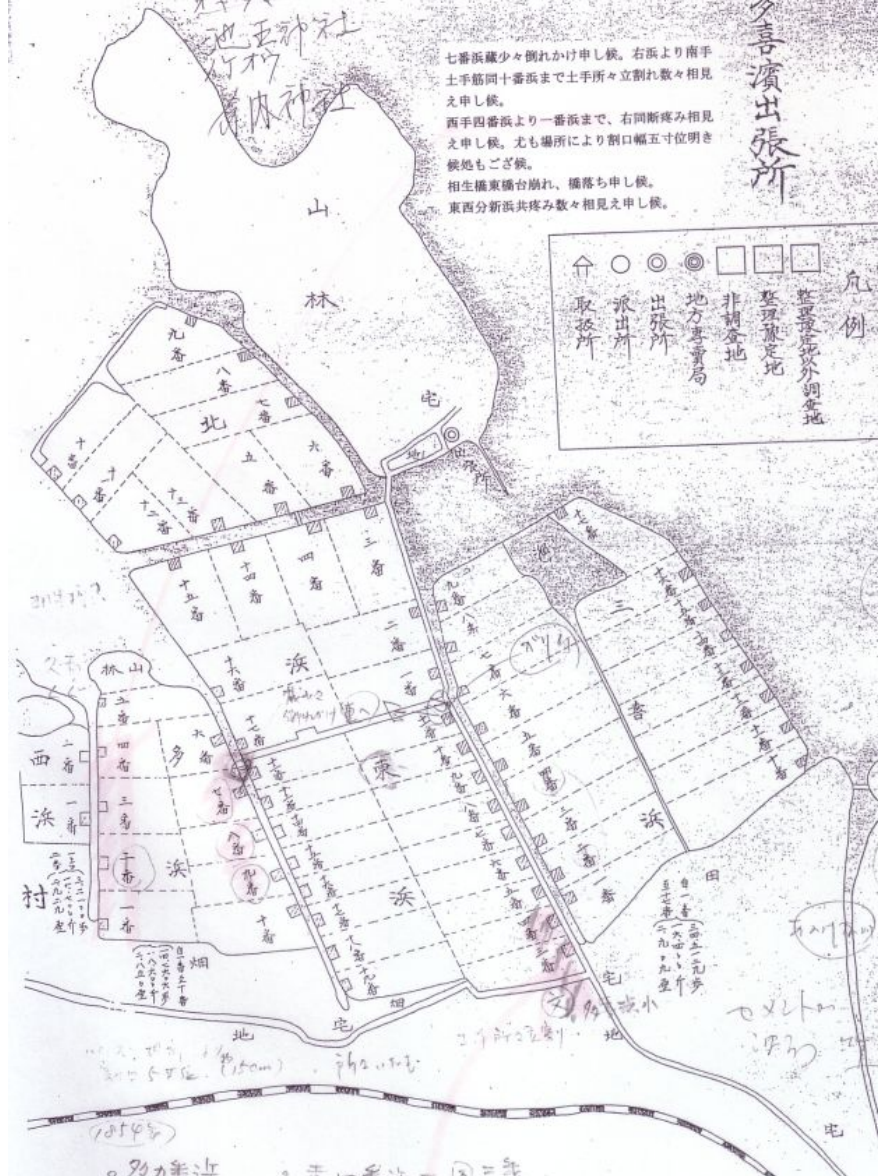
和比 瀬神社 官司 近藤 和 稔 トシ

瀬神社
田子神社
地王神社
青内神社

多喜濱出張所

七番浜蔵少々倒れかけ申し候。右浜より南手
土手筋四十番浜まで土手所々立割れ数々相見え申し候。
西手四番浜より一番浜まで、右間断疼み相見え申し候。尤も場所により割口幅五寸位明き候処もござ候。
相生橋東橋台崩れ、橋落ち申し候。
東西分新浜共疼み数々相見え申し候。

△	○	◎	⊙	□	▣	▤	凡例
取扱所	派出所	出張所	地方専賣局	非調査地	整理敷定地	整理敷外調査地	



63-11
C2

1-1
11/11/11

古い
E-17-101

6-11-1
11/11/11

11-11-1
11/11/11

多九番浜
多八番浜
多七番浜
相生橋
田子

多九番浜土手切垣
多八番浜地場手前
同七番浜の上
相生橋東石垣
同四番浜の上より
多二番浜の前
二間に一間崩れ、土手馬乗り十三間程堅に割れ
長十二間、幅二十間水吹き出し、土地下り、土手馬乗り三十間割れ
四間に一間石垣崩れ、土手馬乗り二十五間並に塩蔵東へなびき
高三間、幅一間崩れ、橋落ち申し候
同二番浜蔵台迄、馬乗り百五十間程なびき
一間石垣崩れ申し候。

昭和の南海地震の体験談

- 地震で大揺れしだしたとき、親が大声で「トウ、トウ、トウ」と叫んでいたが、その時は何のことだかわからなかった。後で「戸を開けろ」ということだったと教えられた。
- 地面やセメントの軒下が波打ち、立っていられなかった。うろたえて何もできなかった。動けなかった。
- 裸足で飛び出し竹藪に逃げ込んだ。古い煙突が倒れた。誰かが「もういっぺん来るぞ」と叫んだ。

新居浜港（東港）



天然記念物

アツケシソウ

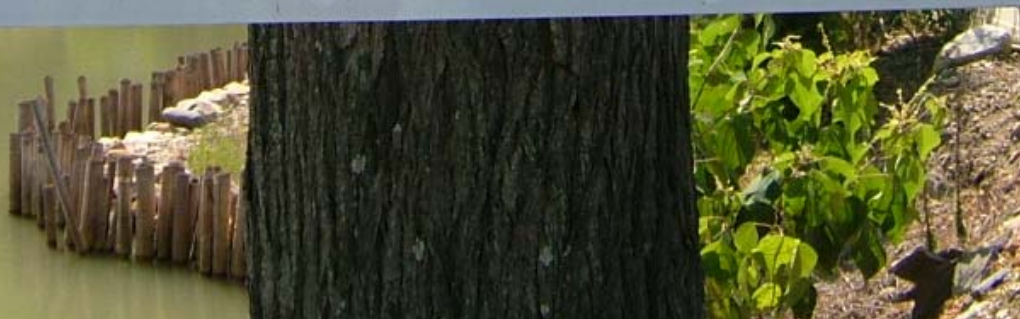
昭和59年(1984)7月5日 市指定

アツケシソウは、塩水につかる砂地に生える「アカザ科」の一年草
高さ15cm～30cmぐらいに成長し、11月ごろになると茎全体が紅黄色
になります。昔、多喜浜の塩田周辺の各所に自生していましたが、
その塩田跡を工場用地に埋立てたので、埋ってしまいました。

その後、このように地元の熱心な方が、家族ぐるみで保存活動に
つとめています。

塩田のアツケシソウは、昔、多喜浜の塩を千石船で北海道へ運んだ
帰り、船底に積みこんだ土砂にまじっていた種子が発芽し、それが
塩田周辺に広がったといわれています。日本の南限地にあたるこの
アツケシソウの保存に協力しましょう。

新居浜市教育委員会







県指定 天然記念物
ソテツ (蘇鉄)

昭和三十三年十二月十四日指定

根回り 7 M ・ 高さ 5 M
地上での広がり 約 65 M

喜望峯開墾(一七〇一年ころ)多喜孫塩田の開祖 天野喜四郎元明氏が、ここを本拠にして塩田の開墾を進めました。
そのときの記念にここに植えた雌株のソテツが成長し、このように大きくなりました。
このようなことからこのソテツは、多喜孫塩田発祥の地を後世に伝える記念物として、とても貴重な存在です。
みんなで大切に守り育てることに努めましょう。
ソテツは九州の南の亜熱帯の海岸の断崖やその近辺に生える常緑の低木、他の樹木のように年輪がありません。

新居浜市教育委員会

多喜浜小が奨励賞

ぼうさい甲子園

地元の歴史から災害学ぶ

【新居浜】子どもや学生の防災教育・活動を顕彰する「ぼうさい甲子園(17防災未来賞)」で、新居浜市立多喜浜小が奨励賞に選ばれた。

同小がある多喜浜地区は江戸時代から塩田の町として栄えた。地盤が弱く、地震による

液状化の被害を受けやすい地域でもある。同小は、その歴史と結びつけながらユニークな災害学習を行った。

夏休み中の7月下旬には、5・6年生の8人が塩田の歴史を学び、南海地震が起きた際にどの程度の被害が想定されるかを調査。また1946年の昭和南海地震を体験した地域の高齢者から当時の様子を聞き取った。8人がまとめた調査結果は2月ごろ発表する。

【岩崎信】



塩田の歴史について地元住民から話を聞く新居浜市立多喜浜小の児童ら(同校提供)

新居浜市立船木中学校

- 生徒数 191人
- 学級数 7クラス
- 教員数 21人 (2008年4月現在)

















地学教育を防災教育の場で

- 遠慮せず**時流に乗る**
- 正規の授業時間に**こだわらず**、いつでも
- **インパクト**のあるものに
- 子供たちにとって**楽しい**ものに
- 教員にとっては**負担軽減**に
- 子供と親、保護者との**会話の材料**に
- 親、保護者を含む**地域を巻き込む**
- **指導に当たる私自身が楽しいものに**

ご静聴ありがとうございました

